

『課題研究』シラバス

科 目 名	学 科	学 年	必修 / 選択	単 位 数
課題研究	畜産科	3 年	必修	2 単位

1 . 科目目標と使用教材

科目目標	自ら課題を選定し、調査・観察を行い、その結果をまとめるプロジェクト学習を通して、畜産科で学んだ3年間の総まとめを行い、課題解決能力や情報の収集・整理・分析能力を身につけましょう。
使用教材	教 材：参考書、教科書などを必要に応じて使用します。 資料集：各種専門雑誌 農業新聞 関係機関発行誌

2 . 学習計画

学期	学 習 項 目	学 習 目 標
1 学 期	専攻分野別プロジェクト ・専攻部門（5部門） 酪農 肉用牛 養豚 養鶏 飼料作物	畜産に関する課題を選定し、その課題の解決をはかる学習を通して、専門的な知識と技術を深め総合化をはかるとともに、問題解決の能力や自発的・創造的な学習態度を身につけましょう。また、畜産に関する課題の改善に向け計画的に取り組める実践的な能力を身につけましょう。 プロジェクト学習の流れ 題目選定 計画 実施計画 実施・資料収集 デ・タ整理 中間報告 レポートのまとめ
2 学 期		
3 学 期	↓	

3. 学習方法

自らが設定した課題について調査・観察を実践していきます。情報の収集、整理、分析を詳細に行いレポートを作成します。日常の観察、調査、記録を綿密に実行することが大切です。

4. 評価の観点

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 家畜の飼育管理について興味・関心を持ち、学習に意欲的に取り組む姿勢が見られるか。 自ら課題を選定し、その解決に向け意欲的に取り組む姿勢が見られるか。
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 家畜の特性や生理生態を応用し、課題解決のための改善方法を考えることができるか。 日常の飼育活動における家畜やその周辺環境の変化を常に意識した活動ができるか。
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 家畜の基礎的、基本的な飼育技術をもとに、その技術を応用し課題解決のための改善に向けた実践活動ができるか。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 家畜の飼育管理に関する基礎的、基本的な知識や技術を応用し、より専門的な知識や技術が習得できているか。 専攻分野における新しい知識や技術を積極的に取り入れ、理解を深めようとしているか。

5. 成績評価

1・2学期	中間	<table border="1"> <tr> <td>定期考査 (素点)</td> <td colspan="4">平 常 点</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>中間考査は行いません。</p>					定期考査 (素点)	平 常 点				%	%	%	%	%
	定期考査 (素点)	平 常 点														
%	%	%	%	%												
3学期	期末	<table border="1"> <tr> <td>定期考査 (素点)</td> <td colspan="4">平 常 点</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>実施計画表 20%</td> <td>授業態度日誌 50%</td> <td>レポ-ト 30%</td> <td>%</td> </tr> </table>					定期考査 (素点)	平 常 点				%	実施計画表 20%	授業態度日誌 50%	レポ-ト 30%	%
	定期考査 (素点)	平 常 点														
%	実施計画表 20%	授業態度日誌 50%	レポ-ト 30%	%												
3学期	学年末	<table border="1"> <tr> <td>定期考査 (素点)</td> <td colspan="4">平 常 点</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>授業態度日誌 50%</td> <td>レポ-ト 50%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>1・2学期の期末テストを総合して評価</p>					定期考査 (素点)	平 常 点				%	授業態度日誌 50%	レポ-ト 50%	%	%
定期考査 (素点)	平 常 点															
%	授業態度日誌 50%	レポ-ト 50%	%	%												

6. 生徒の皆さんへ

畜産科において3年間学んできた専門科目の総まとめとして実施します。課題選定は個々の生徒が自由に行い、専攻分野において実験・実習を通して課題解決のための実践学習を行います。評価は、日々の活動状況を重要なポイントとしています。計画や実施を自ら実践することで課題解決能力を身につけます。